

## 中国朝鮮族複言語話者の言語使用とアイデンティティに関する研究：延辺朝鮮族集住地域を事例に

李, 娜

<https://hdl.handle.net/2324/5068284>

---

出版情報：Kyushu University, 2022, 博士（学術）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名 : 李 娜

論 文 名 : 中国朝鮮族複言語話者の言語使用とアイデンティティに関する研究  
— 延辺朝鮮族集住地域を事例に —

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

言語とアイデンティティが密接な関係にあることは多くの研究で指摘されてきたが、小張(2004)は、複言語話者にとっては『母語=アイデンティティ』という単純な公式が成り立たない場合がある」ことを指摘している。この点からみて、複言語話者にとっての言語とアイデンティティの関係は究明がまたれる課題となっている。これを踏まえ、本研究では、事例として朝鮮半島にルーツを持つ延辺朝鮮族集住地域(以下、集住地域)の複言語話者である中国朝鮮族(以下、朝鮮族)を取り上げる。

従来、朝鮮族の言語使用に関する研究は社会言語学では多くなされているが、その対象は朝鮮語と漢語の二言語使用に留まり、複言語的な着眼点に欠けていた。したがって、社会言語学の観点も含め、二言語だけではなく複言語にも焦点を当て、複言語主義的視点から朝鮮族の言語使用のリアリティを明らかにする必要がある。

そこで、本研究は、改革開放後、集住地域の朝鮮族の朝鮮語・漢語および外国語に対する意識がどのように変化しているのか、その言語使用と意識に焦点を当てて論じる。具体的には、グローバル化等がまだ進展していなかった時期(1970~2000年)に民族教育を受けた社会人と現在の中学生の言語使用の実態および言語意識について調査を行い、両者を比較することによってその変化を明らかにしていく。研究課題として設定したのは以下の3点である。

① 朝鮮族の社会人と中学生の言語能力自己評価及び言語使用実態にはどのような差異があるのか。

② 多言語社会に生きる朝鮮族の言語意識が多様化しているとすればその要因は何か。

③ 朝鮮族の言語使用とアイデンティティにはどのような関係があるのか。

以上の研究課題を解明するために、複言語話者である集住地域出身朝鮮族の社会人802人と中学生780人の合計1582人を対象にアンケート調査と、集住地域在住の複言語話者5人及び日本語教師と英語教師の2人にインタビュー調査を実施し、統計分析と質的分析を行った。

まず、課題①の複言語話者である朝鮮族の社会人と中学生の言語背景、言語能力自己評価、言語使用実態についてのアンケート調査を実施した。その結果から、社会人は朝鮮語を先に習得し、その後に漢語を習得する「連続バイリンガリズム」であるが、中学生は早い段階で同時期に朝鮮語と漢語の二言語を習得する「同時バイリンガリズム化」している者が増加していることが確認された。つまり、朝鮮族の言語使用の過程が変化していることがうかがえる。また、朝鮮語及び漢語の両言語能力に対する自己評価を総合すると、社会人と中学生は同様に朝鮮語と漢語の両方とも運用能力は完全ではないと自己評価していることがわかった。課題②については、まず、アンケート調査では、中学生の民族語である朝鮮語能力の自己評価は低下しているものの民族意識には変化は見られ

なかった。つまり、グローバル化が進展している現在、言語能力とアイデンティティの関係は徐々に薄くなっていく可能性があるのではないかと考えられる。朝鮮族にとって、言語は自己を確認するものというより、現実や将来のための道具的な機能を持ち、殊に民族語は自身が接する文化の中の一つのカテゴリーになっていく可能性が大きいのである。次に、インタビュー調査の結果からは5人の調査協力者にとって、朝鮮語と漢語の二言語併用が最も楽な言語使用であるということがわかった。つまり、現在の朝鮮族にとって朝鮮語と漢語の併用が第一言語的位置付けになっていると言える。課題③については、民族語の能力や使用頻度は低くなっているが、家庭や学校では言語より民族文化への接触機会を増すことで民族アイデンティティを維持していることが確認された。さらに、朝鮮族にとって第三言語あるいは第四言語である外国語教育に関しては、漢語を教授言語とする英語教育の場合は、漢語能力の向上によって以前の学生より英語の学習がしやすくなっていることがわかった。一方で、日本語教育の場合は、日本語学習者は減少しているものの、日本語学習の経験がある人は朝鮮語・漢語と日本語の類似性により日本語に民族アイデンティティを感じていること、さらに日本語学習は不十分な朝鮮語や漢語の両方を向上させる役割を担っていることが確認できた。

本研究では、外国語教育の日本語教育と英語教育は同時バイリンガルである朝鮮族の第一言語(朝鮮語・漢語)の学習や意識に大きく影響を与えると同時に、複言語の使用にも役に立っていることがわかった。付言すれば、複言語話者としての朝鮮族のアイデンティティには言語だけが反映されるのではなく、文化的なものによって補充・拡充される可能性があり、その点は複言語話者ならではの強みである。以上の点を踏まえれば、朝鮮族社会では、朝鮮語と漢語を同時に維持し、それぞれの能力を向上させる機能を有する外国語教育を今後、戦略的に検討していく必要がある。

結論としては、グローバル化やデジタル化などの影響によって、朝鮮族のアイデンティティは朝鮮語だけにとらわれず、漢語・英語・日本語といった複言語とともに朝鮮文化及び複文化と機能的に結び付くようになっていくことが明らかになった。言うなれば、そのアイデンティティは、延辺集住地域というローカルな地域における居住と複言語・複文化とが結び付くことにより、民族性が色濃く反映されたものから民族性とグローバル性が融合したアイデンティティ、つまり、「グローバル・アイデンティティ」へと変化してきている。